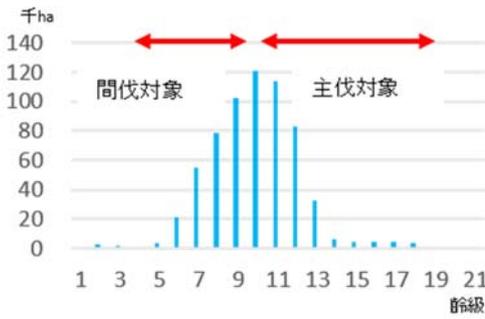


天然力を活用した多様な森林づくり

パイロットフォレスト 200年伐期化に向けた挑戦

計 画 課

天然力を活用した多様な森林づくりの取組



北海道国有林（人工林）の年齢別面積

自然豊かな北海道には、554万haの森林があり、その55%を国有林が管理しています。そのうち人工林が占める割合は22%で65万haとなっています。その人工林の多くは、現在、樹齢が50～55年生、年齢級(注)でいうと10～11年齢級の森林の割合が一番多く、また半数以上は主伐を行う時期を迎えています。そして、国有林におけるこれら人工林の林分内容は、植栽した針葉樹が一斉に育っているのではなく、広葉樹が生育

し混交林化した森林が多く見られます。



広葉樹が入り交じる人工林

このように広葉樹が混交した人工林を画的に皆伐し、再び針葉樹を造林したとしても、再度同様に広葉樹が混交した林相になることが予想されます。このため、主伐期を迎えた人工林を対象に、①植栽した針葉樹の成長状況と被害状況、②単層林況が成り立つ林分なのかどうか、③広葉樹の混交状況、④林床の稚幼樹の発生状況など、現在の森林の姿（現況林分）を適切に評価したうえで、

次世代の森林づくりに必要な施策方法を決めることとしています。

例えば、針葉樹人工林の中に、群状に針広混交林化、広葉樹林化している箇所は、主伐の区域から外して面的に保残するとともに、当該箇所は間伐を行って、広葉樹資源の育成を図るとともに、その供給にも資する施策に取り組んでいます。

また、これら人工林は先に述べたように樹齢が50年～55年生をピークとした釣り鐘型のいびつな年齢構成となっています。林業の成長産業化には毎年一定の伐採、植栽、保育の規模が確保されるよう人工林の年齢構成の平準化が必要です。そのためには、伐期を迎えた人工林を一斉に主伐するのではなく、長伐期化を図る林分も確保することが必要です。長伐期化を進めるためには、個々の林分の地力や気象害、病虫害の発生状況等を踏まえ、適地を見極める必要があります、そのよう

な取組を行いながら、長伐期の林分も確保していきます。

さらに、長伐期化を図るためには、大径丸太が小径丸太よりも高い価格で販売できるようにして、長伐期化へのインセンティブを付与する必要があります。このため、国有林では、大径良材丸太を建築材への利用等を条件とするシステム販売で安定供給することにより、大径材の高付加価値化を図る取組を進めていきます。そして、この取組が国有林にも広がれば、民有林でも長伐期化が図られ、ひいては民有林の人工林の年齢構成の平準化につながっていくことが期待できます。

パイロットフォレスト

冒頭でお話した北海道国有林の22%を占める人工林のうち、とりわけその代表的な森林として、標茶町の国有林に、かつて「不毛の大地」と呼ばれた荒野が先人たちの不

注) 年齢級とは、人工林の苗木が植えられてから、1～5年生を1年齢級、6～10年生を2年齢級・・・としたまとまり

